

Extended and Shared Producer Responsibility

Phase 2

FRAMEWORK REPORT

第1回発表 第一章

発表者 木村哲也

亀井弘子

1. 第1章の要約

- 1.1 <EPR の定義> EPR とは、生産者と製品輸入者が製品のライフサイクルを通して、製品の材料選択、製造過程、再利用、最終処分における法的、物理的、社会経済的責任を負うという概念にである。EPR の考えは、まず生産者は人に一生涯与え得る製品の環境の影響に対して責任を負うべきだということで、そして環境に関する外部不経済の内部化の必要があるというものである。一般廃棄物問題を、廃棄物抑制と廃棄物処理の社会的費用を最小化することを目標として、経済的に解決していく方法が EPR である。また、対象商品のライフサイクルのチェーンに関わっている当事者である民間にも責任があるとし、廃棄物の収集、分別、再利用、リサイクル、消却、最終処分における責任を地方公共団体から民間へ移すことによって民営化し、これによって環境保全と経済効率が向上するとされている。
- 1.2 <この report の展望> EPR は産業廃棄物最小化への手段なのだが、ここで言う廃棄物最小化とは、根源で一般廃棄物を防止、減少させ、発生する廃棄物の質を改善し、再利用、リサイクルを進めるということである。EPR を利用していく上で問題となるのが、国や地域によって取り巻く環境が違うため、市場や技術、政治的実行可能性が様々であるということで、そのために EPR は国によって少しずつ、その国に適当と思われるように変化させていくことが必要となる。また、EPR の中で最も進歩しているのは包装部分の対策で、この事から他の製品でも作用するだろうという考えが出ているのだが、もし包装において作用しなくなったからといって、他の製品への EPR の適用に悪影響があるということにはならない。
- 1.3 <EPR のコンセプト> EPR では、最終的に社会の協力を得ることが目標であるため、製品の様々な段階においての物理的責任は生産者以外にも存在する。よって、“extended producer responsibility” というよりはむしろ、“extended and shared producer responsibility” といった方が正しいのである。それから、12 ページの図については、EPR 計画の下での資源と資本の流れを表している。製品が作られると、左上からスタートし、時計回りにライフサイクルが動く。右上で、使用済みの製品を消費者は再利用として生産者に一部を返し、残りは廃棄物管理者によって集められる。そして、そこからリサイクルする人や最終処理者にまわされる。EPR の下では、生産者から廃棄物を集める人へと、また集めた人からリ

サイクルする人へ、2 つのお金の流れがある。EPR で大切なのは、消費者の次に製品が移動する先が最終処分の所ではなく、別の所へと変化する所である。またこのライフサイクルは、リサイクルされた 2 次資源として、生産者に戻っていく事で完結する。中央の PRO は、個々の企業が生産者としての責任を分かち合うための組織であり、これが EPR 計画成功のカギを握っている。

2 . 補足

- ・ 第 1 章の内容に関する実証データ
包装廃棄物に真っ先に取り組んでいる大きな理由

3 . EPR の良い点

- ・ 廃棄物処理コストに関する外部不経済の内部化
- ・ 民営化による経済効率の向上
- ・ 規制によるリサイクル率の向上

4 . EPR 施行に際しての問題点

- ・ 日本国内に適用させるためにはいったいどうすればいいのか

5 . 参考文献

- ・ 環境白書(総説) 平成 10 年版 平成 10 年 6 月 5 日発行
- ・ 環境白書(総説) 平成 9 年版 平成 9 年 6 月 5 日発行
- ・ 環境白書(各論) 平成 9 年版 平成 9 年 6 月 5 日発行
編集 環境庁 企画調整局調査企画室
発行 大蔵省印刷局
- ・ 朝日新聞 世論調査 平成 9 年 6 月 21 日付紙面